

市立

いちかわ

# 自然博物館だより

令和8年(2026年)

2-3月号

(通巻 222号)

2025年度

あたりまえの風景に  
あたりまえの生き物に  
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ホソミイトトンボ

夏型と越冬型があり、越冬型は成虫で冬を超します。越冬期は地味な褐色ですが、活動期は色鮮やかです。

P1 ☀️ いきもの写真館  
ホソミイトトンボ

P2 ☀️ 長田谷津いきもの暦  
2月と3月の暦  
/ 3

P4 ☀️ 花を透明にして観る  
ビオラ

P5 ☀️ 長田谷津のとりたち  
ハイタカ

P6 ☀️ くすのきのあるバス通りから  
ウズラの卵模様の繭

P6 ☀️ ミニ解説 市川市域  
下総台地の基本地形

P7 ☀️ わたしの観察ノート  
11~12月の記録

P8 ☀️ ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。



自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当て、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

2月

長田谷津の大イベント「ニホンアカガエルの産卵」の最盛期です。毎年のことながら、雨が降るたびに産んだかな?と期待してしまいます。気が付くと、フキノトウが顔を出し、暖かい日には成虫越冬組のチョウが飛び、春はすぐそこまで来ていると実感させられます。

1日 ハンノキ林から斜面林へ、ニホンノウサギが大きな物音を立てながら走っていききました(2017)

2日 トラツグミが湿地で餌を探していました(2023)

3日 エナガがクモの巣の残骸から糸をくわえていました。もう巣作りが始まったようです(2021)



ハンノキの雄花

4日 ハンノキの長く伸びた雄花の房が黄色く染まっていました(2017)

5日 -

6日 湿地整備で、埋まった斜面裾を掘り上げると、すかさずルリビタキが飛んできて掘り出させたミミズを食べていました(2020)

7日 シダレヤナギの枝にイラガのマユがありました(2024)

8日 今冬は、アカゲラが少なくとも3個体越冬しています。カシノナガキクイムシによるナラ枯れの影響で、餌がとりやすいのかもしれませんが(2024)

9日 カワナが這った跡が模様のようについていました(2022)

10日 アオカワモツクの株が、すこしずつ増えてきました(2018)

11日 前夜に暖かい雨が降りました。翌日は、お約束どおりニホンアカガエルの卵塊がありました。谷津全体で53個、確認しました(2018)

12日 よく晴れた空を、オオタカが舞いました(2019)

13日 ふきのとうが顔を出していました(2020)



フキ(ふきのとう)

14日 ムラサキツバメ 6頭がアオキの葉で越冬していました(2024)

15日 アトリの群れが飛び立ちました(2022)

16日 暖かい湿地をキタテハが飛び回っていました(2024)

17日 観賞植物園の前の木にマヒワの群れが来ました(2018)

18日 大町門から入ってすぐの竹林でフクロウがひと声鳴きました(2024)



ルリタテハ

19日 アオキの葉に紙風船のような純白の多面体がありました。クサグモの卵のうです(2018)

20日 谷のあちこちでルリタテハの姿が目に入りました(2019)

21日 谷津全体で、ニホンアカガエルの卵塊が189個ありました(2017)

22日 園路の真横の木にオオタカがいました(2024)



ニホンアカガエルの卵塊

23日 もみじ山にシロハラが食べられた跡がありました(2023)

24日 ニホンアカガエルのオスがウシガエルの子供に抱き着いていました(2019)

25日 ウグイスが「ほーほけきよ」とさえずりました(2024)

26日 アカバナが、実がはじけた独特の姿で枯れていました(2017)

27日 スナヤツメの調査を行いました。幼魚、成魚共に確認できました(2019)

28日 ニワトコの冬芽がほころんで、羽状複葉の葉っぱと、小さな花になるたくさんのつぼみが顔を出していました(2024)

29日 大町門から入ってすぐの池にアズマヒキガエルの卵塊がありました(2024)

自然博物館では学芸員が記録した自然観察の記録を自然観察週報としてHPで公開しています。その中から、長田谷津のここ10年の記録に焦点を当てて、日付順で記載しました。長田谷津の自然の移り変わり、季節指標などを感じていただければと思います。

長田谷津いきもの暦

3月

待ちに待った春の到来です。斜面林を彩るコブシの白花、林床でひっそりと咲くシュラン。湿地に目を向けるとタネツケバナの花と集まるツマキチョウ。水中ではアズマヒキガエルの蛙合戦や絶滅危惧種のスナヤツメの産卵など、本当に見どころが満載です。

- 1日 ニホンアカガエルの産卵はひと段落ついたようで、早くに産卵された卵はもうオタマジャクシになっていました(2019)
- 2日 日当たりの良い場所でニホンカナヘビが日光浴をしていました(2022)
- 3日 中央水路でアオカワモゾクの調査をしました。エコアップ池から下流側に116株を確認することができました(2021)
- 4日 湧水の水路に網を入れると、大きなホトケドジョウが何匹もとれました(2018)
- 5日 オオタカのペアがディスプレイフライトをしていました(2020)
- 6日 スナヤツメの産卵を確認しました。7頭ほどで産卵を行っていました(2020)
- 7日 エナガが、ガマの穂の綿毛を塊りてくわえていました。巣作りが始まっているようです(2015)
- 8日 イヌコリヤナギの雄株がたくさん花をつけていました。開く前の赤い葯と、そこから出てきた花粉の黄色が、きれいでした(2023)
- 9日 三角池でアズマヒキガエルの鳴き声が聞こえました。池をのぞくと、すでに抱接しているペアも見られました(2021)
- 10日 オオイヌノフグリがあちこちで咲いていました(2024)
- 11日 ルリタテハとキタテハをよく見かけました(2022)
- 12日 -
- 13日 タネツケバナが咲き出しました(2024) 体が青くなったホソミオツネトンボを見かけました(2022)
- 14日 ツマキチョウを初認しました(2021)



アオカワモゾク



ツマキチョウ

- 15日 谷津のあちこちでコブシの白花が目立ちました(2023)
- 16日 斜面林のシュランはどの株も満開でした(2021)
- 17日 ウグイスカグラが満開でした(2019)
- 18日 春のたより「つくしんぼう」がよきよきと生えていました(2018)
- 19日 博物館の外壁の下に珍しいムネアカセンチコガネが落ちていました(2023)
- 20日 満開のセントウソウの群落をテングチョウが飛んでいました(2020)
- 21日 イヌシデの満開の雄花序がきれいです。斜面林のあちこちを鮮やかな黄色にしています(2023)
- 22日 ムサラキハナナの花にアゲハが来ていました(2019)
- 23日 斜面林のヤマザクラの花が目立つようになりました(2023)
- 24日 上空をサシバが飛んでいました(2020) 大池のミツガシワが咲き始めました(2021)
- 25日 タンポポの花にヒメアカタテハがきていました(2020)
- 26日 ウラシマソウが咲いていました(2020)
- 27日 エコアップ池でアオサギが大きなドジョウを食べていました(2022)
- 28日 ツバメが飛んでいました(2020)
- 29日 キタキチョウが飛んでいました(2015)
- 30日 大池にカワウの羽が散乱していました。何者かに食べられたようです(2022)
- 31日 シオヤトンボの羽化が始まっているようで、谷のあちこちで見かけました(2023)



コブシの花

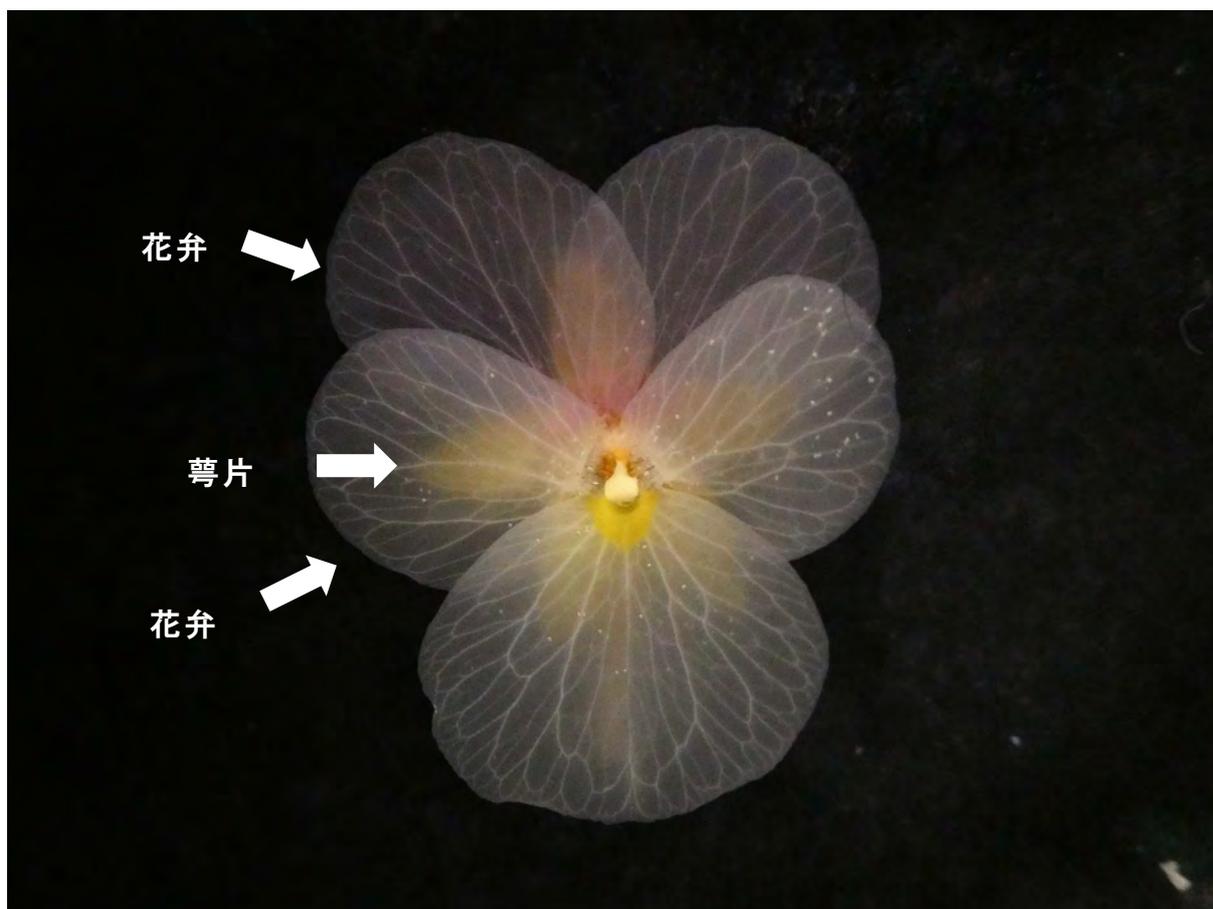


ウラシマソウ

花を透明にして観る\*\*\*\*\*

# ビオラ

花を薬品で処理して透明にしました。一般的な押し葉標本だと花も平らになってしましますが、この方法だと立体を保ったまま内部構造を見ることができます。印刷物にすることで結局、平面になってしましますが、実物をそのまま見れば立体的に花のつくりを理解することができます。



ビオラの花（今回は園芸植物です）

以前コスミレを扱ったときは花の立体構造に着目しましたが、今回は花弁と萼片の位置関係に着目します。

- ・花弁（花びら）と萼片（がく片）は、いずれも花という生殖器官を作る「特別な葉」に相当する。これは、雄しべ、雌しべも同じ。「特別な葉」が形態や機能を変化させて花ができています。
- ・茎の方からたどって行って、最初に出てくる「特別な葉」が萼片、その次が花弁、その次が雄しべ、いちばん先っぽが雌しべ。
- ・花弁、萼片、雄しべは、互い違いの位置関係にあるのが基本の形。写真では花弁と萼片が同じ位置に見えるが、付け根の所を見ると互い違いになっている。

# 長田谷津のとりたち

自然博物館で行っている鳥類調査の記録から  
一押しのとりにちをエピソードと共に紹介します。

## ハイタカ

ハイタカはタカ目タカ科ハイタカ属に分類されるタカです。大きさは雌雄で差がありますが、おおよそカワラバト(ドバト)大です。ユーラシア大陸に広く分布し、アフリカ北部にも生息しています。日本では北海道と本州で繁殖が確認されています。千葉県の平野部には、主に越冬のために飛来し、繁殖は確認されていません。長田谷津では10月下旬に初認され、そのまま春まで見ることができます。渡去は比較的遅く、4月中旬までは、普通に見ることができ、5月になると見なくなります。

## ハイタカ探しは小鳥の鳴き声から

ハイタカが見たい！そんな願いをかなえてくれるのはエナガやシジュウカラなどの小鳥たちです。小鳥にとってハイタカはまさに天敵。小鳥たちはハイタカに対する警戒を怠りません。ハイタカを見つけると、それぞれ警戒声を発します。種類によってさまざまですが、中でもエナガの声は特徴的です。上空を飛ぶハイタカを見つけると「チリリリリリリ」とけたたましく鳴きます。この声を覚えると、我々もハイタカの存在にいち早く気が付くことができ、発見率が格段に上がります。

この警戒声は、他の猛禽類に対しても使われます。ツミとオオタカに対してはよく発し、サシバやノスリに対しては、発さない、もしくはすぐにやめる、ことも多いので、タカの種類と状況によって警戒心に差があると思われます。



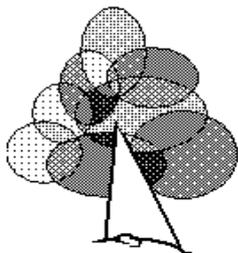
### 上空を飛ぶハイタカに対する警戒声



**エナガ**  
けたたましく  
**チリリリリリリ**  
(2026年1月29日 長田谷津)

**シジュウカラ**  
緊迫感のある  
**チィチィチィ(ヒィヒィ)**  
(2025年1月30日 長田谷津)





## ウズラの卵模様の繭

暮れに、庭木の剪定をしました。北方の長男宅の、カキノキに、メジロの巣があったそうです。天然の素材の中に、化学繊維が少し混じっていました。八幡の我が家の庭木に、カマキリの卵鞘(らんしょう)と、ウズラの卵の模様に似た、イラガの繭(まゆ)が見つかりました。今年の夏、隣の家の庭木に、小さいイラガの幼虫がビッシリといました。その中の、一匹かもしれません。

1月10日、JR本八幡駅に行く途中、オナガが4、5羽飛んでいました。向かった先の浦安でも、姿は見えませんでした。木が茂った大きな家の庭先で、鳴く声が

聞こえました。

ウメ・ロウバイ・ヤツデ・ヒイラギナンテンの花が咲いています。「今年の梅の開花は、例年より早い」とニュースで言っていました。

半分に切ったミカンを木の枝に刺しておくのと、メジロが、果汁を吸いに来ます。ヒヨドリは袋ごと食べたらしく、乱暴にむしり取り、しまいには、下に落として食べています。

木々の葉が落ちて見通しが良く、出歩くには、日差しがあると暖かいです。でも、気温が一桁で、風が強いと寒いです。

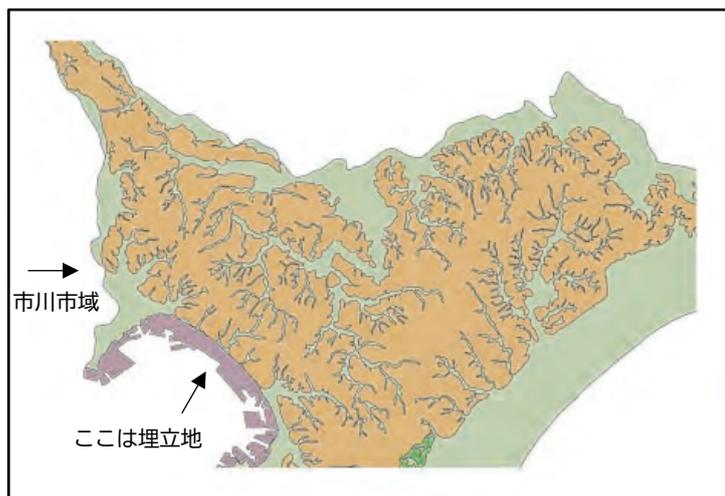
(M. M.)

### No.6 市川市域

## 下総台地の基本地形

前回、紹介したように、市川市域北部には3つの台地があり、その間が2つの谷になっています。ただ、3つの台地という表現は正確ではなく、市川市域だけを切り取った場合に見かけ上3つに見えるだけで、実際は3つの台地はつながっています。市川市域の台地は、千葉県北西部から北東部にかけて広がる「下総台地」という大きな台地の西南端にあたっています。

図は、下総台地の全体を示したものです。色が濃い(カラーでは茶色)部分が台地で、色が薄い(カラーでは薄緑色)部分が低地です。下総台地全体で台地は谷に刻まれています。この谷のうち、枝分かれした細かい部分が「谷津」と呼ばれる地形です。長田谷津のような谷津が、下総台地の一般的な地形であることがわかります。



# わたしの 観察ノート

## ◆長田谷津より

- ・園路のすぐ近くからハンノキの枝に飛び上がったシジュウカラが、大きな黄色の葉のようなものをくわえていました(11/2)。カメラで撮影して確認すると、アケビコノハの成虫をくわえていました。黄色の葉に見えたのは、内側の翅だったようです。じっとしていると落ち葉にしか見えなくても、シジュウカラに見つかってしまうことがあるようです。

稲村優一(自然博物館)

- ・埋まった水路を掘り上げました。休憩後、水路に戻って作業を再開したら足元から濃い灰色の俵形が左右に揺れながら水路を横断していききました。一瞬たじろぎ、すぐにアズマモグラだと気づきました(11/10)。足が短いので、歩くというよりは這う感じで愉快でした。ただ、モグラの体毛の質感は美しく、哺乳類の中でも一番きれいかな、とも思いました。
- ・冷たい雨が降った翌日、潤った林が日に照らされていきました(12/15)。小鳥たちの群れが来て、餌探しに余念がありませんでした。シジュウカラ、メジロ、コゲラなどのおなじみのメンバーに加え、キクイタダキ、ヒガラも見られました。リュウキュウサンショウクイも同じタイミングで枝にいたので、群れに混じって行動していたのかもしれません。
- ・今冬はノスリが来ています。年末の閉園で人がいない長田谷津を歩くと、湿地から飛び立ちました(12/30)。草を刈った広々とした場所です。モグラもいるので、餌獲りだったのかもしれません。狩りをする動物にとっ

ては、人がいるかいないかは大問題かもしれません。

## ◆坂川旧河口より

- ・旧河道沿いに育っている河畔林には、いろいろなツル植物が生えています。ツルウメモドキの実をついばんでいたのはヒヨドリでした(12/11)。

以上 金子謙一(自然博物館)

## ◆三番瀬より(12/8)

- ・スズガモの50羽ほどの群れの中にビロードキンクロのオスが1羽混ざっていました。
- ・干潟の上をトビが飛んでいました。東京湾奥ではたまに見かけます。
- ・潮が満ちた干潟の杭の上で、ミサゴが捕まえた魚を食べていました。
- ・ダイゼンの20羽ほどの群れが干潟に降りて餌を探していました。「ピュイ〜」という特徴的な鳴き声がよく聞こえました。

以上 稲村優一

## ◆江戸川放水路より

- ・潮が満ちてきたタイミングで、干潟に近い場所をボラが群れで泳いでいました(12/4)。満ち潮が干潟に入ると、ボラたちも入ってきました。有機物食のボラにとって、潮が流れ込んだ干潟は餌が多いのでしょうか。ただ、浅いので行動は水平面に限られ、潜っては逃げられません。案の定、狙いを定めたアオサギに捕らえられていました。

金子謙一

今年は林の黄葉紅葉、モミジの紅葉がととてもきれいでした。昼間は穏やかな秋晴れの日が多くありましたが、12月に入ると朝冷え込む日もありました。

## ホームページをご利用ください



自然博物館では、市川市域の自然に関する情報や解説を、ホームページ（webサイト）に掲載しています。展示室のパネルよりも、ホームページの方が情報量は格段に多いです。検索で「市川自然博物館」と入れていただき、下に示した画面が出てくれば、それが当館のホームページのトップです（検索1番目を開くと市川市役所のページに誘導されてしまう場合がありますので、その時は検索2番目を開いてみてください）。



### ホームページの内容

- ・ご利用案内
- ・展示紹介、詳しい解説
- ・行事案内
- ・自然観察の記録、オリジナル動画
- ・博物館だより、出版物のご案内



## ＜行事のご案内＞

長田谷津は、大町公園の自然観察園のもともとの呼び名です。

### ○長田谷津散策会（申し込み不要・荒天中止）

季節の風景や動植物を楽しみながら、  
ゆっくりと散策します。

集合：動物園券売所前 午前10時  
解散：集合と同じ場所で 午前11時30分

	長田谷津散策会	湿地環境整備
2月	21日 土曜日	おやすみ
3月	22日 日曜日	1日 日曜日
		29日 日曜日

### ○湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか

（要問合せ・荒天中止）

学芸員と一緒に環境整備作業を行います。

たとえば…湿地の草刈、枯れ枝のかたづけ、水路の整備、など

集合：観賞植物園 午前10時  
解散：集合と同じ場所で 正午

初参加の方は・・・お電話で博物館までお問合せください。

湿地の中に入る作業もありますので作業内容や身支度などについてご説明します。

### 臨時休館のお知らせ

**令和8年2月27日まで**  
**休館いたします**

自然博物館は、  
照明器具のLED化工事を行うため、  
臨時休館いたします。

この期間中も行事はおこないます

第38巻 第6号（通巻第222号）

令和8年2月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館  
（市川市教育委員会教育振興部）

〒272-0801千葉県市川市大町284番地

☎047(339)0477